

その「データ」に最適なクラウドを！
～データの特徴に応じたクラウド活用～



2011年10月に住商情報システム（SCS）とCSKが合併し誕生

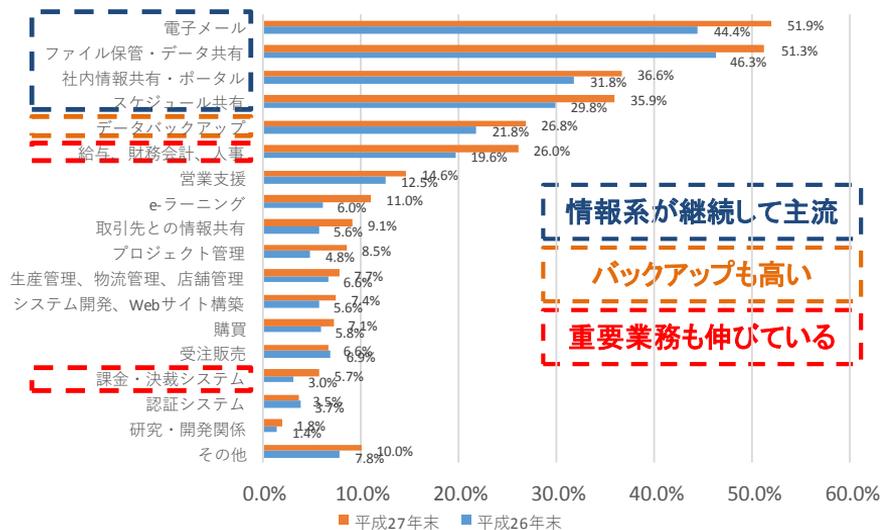
会社名	SCSK株式会社（東証一部上場）
代表取締役 社長執行役員	谷原 徹
本社所在地	東京都江東区豊洲
設立	1969年
資本金	211億5千2百円
売上高	3,293億円（2017年3月決算）
従業員数	11,910名（連結）（2017年3月31日現在）



**ITに関するすべてのサービスで、
ビジネスの新価値創造とグローバル展開をサポートします**

クラウド利用の最近

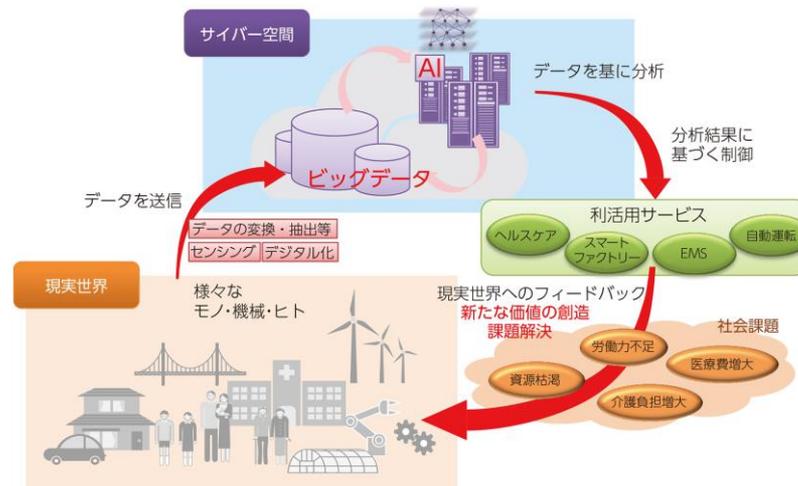
利用したクラウドサービス内容(複数回答)



出典:「平成27年通信利用動向調査」(総務省)より作成

- ・メール、情報共有など情報系システムが主流の一方で、
- ・バックアップでの利用も高い
- ・人給/会計を中心とした基幹系や、課金・決裁系など、重要業務システムでの利用に伸びが見られる

IoT・ビッグデータ・AI



出展:「平成28年版情報通信白書」(総務省)

クラウドサービスの発達で、IoT・ビッグデータ・AI領域の利用が急速に伸びると予測される

クラウド上で扱われるデータの種類や特性の例

形態	構造化データ	特定の構造を持ち、データベース(RDB)に格納されるデータ (基幹系など、重要業務システムで使われることも多い)
	非構造化データ	特定の構造を持たない、ファイルやストリーミングなどのデータ (IoTなど近年急速に大容量化が進むデータも含まれる)
セキュリティ (C.I.A)	機密性(Confidentiality)	そのデータを権限を持ったものだけにアクセスさせるか (機密性に応じてサービスを選定するなどの考慮)
	完全性(Integrity)	そのデータが破損や改ざんされないようにするか (バックアップなどのデータ保護対策の考慮)
	可用性(Availability)	そのデータに利用者が必要なときにアクセスできるか (冗長化構成などの考慮)
性能	IO、スループット	リアルタイム処理など、より高速にIOを行いたいかどうか、 あるいはバッチ処理などで、完了時間の考慮が必要かどうか
容量	必要容量、増加ペース	初期に必要な容量や、増加に必要な容量がどれくらいか (大容量になるほど、よりコストとのバランスを考慮)

対象データにより、考慮度合いは異なる → 全て同じストレージでは非効率な場合も
データの特性によって、サービス・メニューを選ぶことも考慮

SCSKのクラウドサービスUSiZE(ユーサイズ)

複数のクラウドサービスラインナップにより、業務の特性に応じ最適なITインフラ環境を提供

モデル名	プライベートモデル	シェアードモデル (千葉・三田)	シェアードモデル (netXCloud/都内)	パブリッククラウド モデル(AWS/Azure)
DCロケーション		SCSKデータセンタ		国内 & グローバル
マネージドタイプ		マネージド型		セルフ型
ハイパーバイザ	個別設計	Vmware (HA機能標準装備)		AWS、Azureの仕 様に基づく
独立性	物理専有	物理共有・論理分割 ※千葉・三田は、サーバ占有モデルあり		
NW接続		個別	共有インターネット (標準提供)	
サービスレベル				
可用性	個別	◎	○	△
迅速性	△	○	◎	◎
拡張性	△	○	○	◎
カスタマイズ性	◎	○	△	△

カスタマイズ性を重視

拡張性・柔軟性を重視

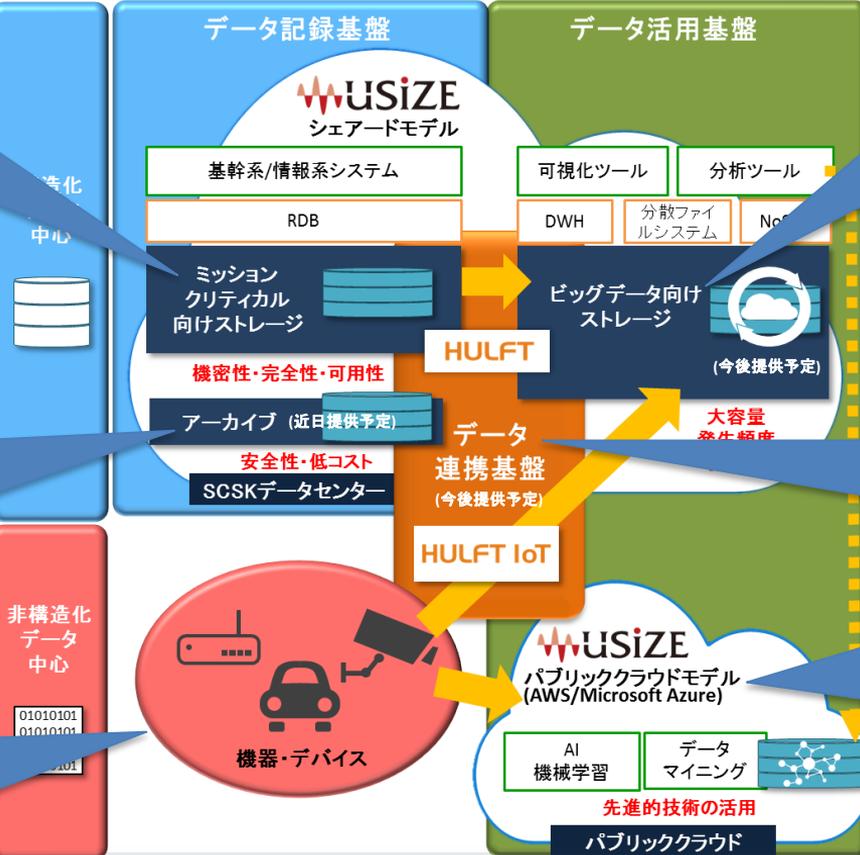
USiZEシェアードモデル(千葉・三田) 各ストレージサービスの特徴

ストレージサービス
ラインナップの追加により
より広くデータの特性に
応じたメニュー選択が可能に！

サービス ラインナップ	現行ストレージサービス (ミッションクリティカル向け)		追加ストレージサービス (今後提供予定)	
	Standard	Low	ビッグデータ向け	アーカイブ向け
ストレージ性能	高	中	高	中～低
目標稼働率	99.999%以上	99.999%以上	99.95%以上	99.95%以上
1ドライブ容量	～15TB (10GB 単位)		～32TB (1,000GB 単位) ※標準容量。更なる拡張も可	
ユースケース	DBサーバ EC 基幹系システム	APサーバ 部門システム 運用システム	可視化・分析 BI IoT	大容量・低コスト保管 バックアップ 映像・文書保管

データの特성에応じたクラウド・ストレージ活用イメージ (当社サービスの例)

基幹系・情報系のうち
重要業務システムのデータ
(主に構造化データが中心)



バックアップや長期保管
(アーカイブ)を目的とした
大容量データ

IoTデバイスなどから
生成されるデータ
(非構造化データが中心)

可視化、分析のために
収集される多様、
多量なデータ

分析ツールへの連携や、
IoTデバイスからの欠損させ
たくない、または機密性が
高いファイルの連携

ストリーミングデータの
格納や、先進的なデータ
分析ツールの活用

- ✓ 一口にデータといっても、いくつかの観点で特性がある
 - 構造化・非構造化
 - 機密性・完全性・可用性
 - 処理性能
 - 容量・コスト
- ✓ 業務システムの特性でクラウドサービスを選ぶことに加え、データの特性に応じてサービスラインナップを選択することも考慮すべき
- ✓ SCSKのUSiZE(ユーサイズ)は、業務やデータの特性に応じ、クラウドモデルやストレージサービスラインナップを複数取り揃え、お客様に最適なクラウドを提供します

ありがとうございました



USiZEについてのお問合せ

usize-info@ml.scsk.jp